

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	外国語 1	
科目基礎情報							
開設学科	建築学科		コース名			開設期	前期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		開講時間	火 3～4時限		授業形態	講義
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	井口 純			実務経験の有無・職種	有・建築設計 一級建築士		
学習目的							
この科目は、グローバル化が当たり前の21世紀において、外国語ここでは英語へ親しみ、理解を深めることを目的とする。また今年度は題材として英語圏の建築からアメリカ（北米）の建築と都市を取り上げる。特に従来日本の建築アカデミズムの世界でアメリカ建築は評価が低く、一般的な認知度も低い。それらを改めることも目的とする。総じてこの授業を通して英語に対して苦手感のある学生も、英語に多少抵抗感を無くすこと、建築に関する単語やヴォキャブラリーを増やしていくことを目的とする。							
到達目標							
この科目では、学生が、建築という素材を通して英語に親しむこと、またこの授業をきっかけとして英語圏など海外の建築にも目を向け 関心を高めることを目標にしている。また放送大学の試験対策を過去問の演習を数回行うことにより、学生の放送大学の英語科目の合格率を上げることを目標とする。さらには建築業界にもグローバル化の波が押し寄せる中、将来的に学生が社会に出たとき、仕事で海外案件などに従事する際に現地のスタッフとうまくコミュニケーションを採れることも目標とする。							
教育方法等							
授業概要	この授業では、毎回地域や建築家などテーマを決めてスライドやプリントを用いて解説していく。テーマによってさらにビデオも視聴し、より理解を深める。また放送大学の英語科目対策として、数回過去問を演習し解答を解説する。						
注意点	授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は課題を提出しても不合格となる。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	90%	試験は行わない、別紙課題を総合的に評価する				
	小テスト	0%	特になし				
	レポート	5%	複数回授業中に教材から自分の知らない英単語を調べ、書き出し提出する				
	成果発表 (口頭・実技)	0%	特になし				
	平常点	5%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
1回	Architecture in East Coast		アメリカ東海岸の建築についてその特徴を理解する、Salt Box, Skyscraper				
2回	Boston and New York		ボストンやニューヨークの2都市をとりあげ、都市や最新の建築について学ぶ				
3回	Architecture in West Coast		アメリカ西海岸の建築についてその特徴を理解する、Spanish Colonial, Case Study House				
4回	Los Angeles and San Diego		ロサンゼルスやサンディエゴの2都市をとりあげ、都市や最新の建築について学ぶ				
5回	American Architect 1		Louis Kahnの建築について学ぶ				
6回	American Architect 2		Frank O Gehryの建築について学ぶ				
7回	American Architect 3		Richard Meier その他の建築について学ぶ				
8回	How to study in USA		アメリカへの留学、大学、資格、仕事について紹介				
9回	TOEIC 紹介		TOEIC の紹介、 サンプル問題テスト、解説				
10回	TOEIC演習		TOEIC の過去問を演習する				
11回	建築英語に触れる 1		Basic English for Architecture Unit 3 を学ぶ				
12回	建築英語に触れる 2		Basic English for Architecture Unit 5 を学ぶ				
13回	「英語事始め」対策1		放送大学の過去問を演習し、本試験合格を目指す				
14回	「英語事始め」対策2		放送大学の過去問を演習し、本試験合格を目指す				
15回	補足 課題提出		1～14回の補足、課題提出及び受付				